

I C T活用事例集

あぶくま支援学校

ICT 事例集

A 1

教員による教材の提示

A1 教員による教材の提示



画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

B1 個に応じる学習



一人一人の習熟の程度等に応じた学習

B2 調査活動



インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録

C1 発表や話し合い



グループや学級全体での発表・話し合い

C2 協働での意見整理



複数の意見・考えを議論して整理

B3 思考を深める学習



シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習

B4 表現・制作



マルチメディアを用いた資料、作品の制作

B5 家庭学習



情報端末の持ち帰りによる家庭学習

C3 協働制作



グループでの分担、協働による作品の制作

C4 学校の壁を越えた学習



遠隔地や海外の学校等との交流授業

学年： 小学部5年 教科名等：生活単元学習(生活・国語)

<p>授業の目標 (活動の目標)</p>	<p>・校外学習で行く「ハンバーガーショップ」のメニューを知り、自分で食べたいものをイラストを見て選ぶことができる。</p>
<p>ICT 活用の ねらいと効果</p>	<p>○イラストを見ることで「ハンバーガーショップ」について知ることができたり、自分でメニューを選ぶことができたりするようになった。</p> <p>・イラストを見て自分の好きなものや食べたいものを選ぶことができた。</p> <p>・選んだものに印をつけることで本人が選んだものを振り返ったり友達が選んだものを確認したりすることができた。</p> <p>○メインの食べ物、サイドメニュー、飲み物といった選ぶ項目ごとに背景の色を変え、色の中のイラストから一つ選ぶことを視覚的に分かりやすいようにした。</p> <div data-bbox="399 515 774 728" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="877 582 1412 705" data-label="Text"> <p>児童の顔写真をかえて、 児童分のメニュー表を作成した。</p> </div>
<p>活用ツール</p>	<p>【メニュー表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PowerPoint(メニュー表の作成) ・Jam board(児童への提示及びメニュー表へ印をつける) <p>【授業で使用したもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビ ・タブレット端末(iPad) ・Jam board(アプリ)
<p>ICT を活用して 良かった点 反省・改善点等</p>	<p>○一人一人の児童ごとシートを変え、だれが何を選んだのかが一目でわかり、振り返りがしやすかった。</p> <p>○シートを印刷して掲示し、校外学習前の意欲につなげ、学習後のまとめや振り返りに活用できた。</p>

学年： 高等部 2学年3組 教科名等：生活単元学習(家庭科・美術科)

<p>授業の目標</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>○身の回りのパッケージや表示には、見やすい色彩の工夫があることを理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○色の組み合わせによって見え方が異なることや、見やすい組み合わせがあることに気付く。</p>
<p>ICT 活用の ねらいと効果</p>	<p>○色覚障がいのある方の見え方を疑似体験し、見えにくさを感じたときの気持ちを理解する。</p> <p>・「文字がよく見えない」「実際の色と全然違って見える」「文字と背景の境界が分かりにくい」「文字を読み取るのに時間がかかる」などの発言があった。</p> <p>・見えにくさから、生活上の困難がある方の気持ちに気付くことができた。</p> <div data-bbox="375 1512 734 1691" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="957 1512 1189 1680" data-label="Image"> </div>
<p>活用ツール</p>	<p>○色のシュミレーター (色覚障がいのある方の見え方を疑似体験できるアプリケーション)</p> <div data-bbox="446 1736 614 1904" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="750 1736 917 1904" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1021 1736 1204 1848" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="774 1836 901 1904" data-label="Caption"> <p>通常</p> </div> <div data-bbox="917 1836 1364 1904" data-label="Caption"> <p>色覚障がいのある方の見え方</p> </div>
<p>ICT を活用して 良かった点 反省・改善点等</p>	<p>○どのような見え方をしているのか、写真ではなくリアルタイムに観察できたことで、より“自分事”として考えることができた。</p> <p>○今後、生徒が作成した発表物について、見やすいかどうか自分で確認ができる。</p> <p>●見え方に衝撃を受けた生徒は、注視することができなかった。</p>

学年： 高等部2・3年類型Ⅲ 教科名等： 保健体育	
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しみ方を工夫するとともに考えたことや気付いたことなどを他者に伝えることができる。
ICT 活用のねらいと効果	<ul style="list-style-type: none"> ○シューティングゲームで決めたシュートの本数を確認できるようにした。 ・前回の振り返り、本時の目標を設定する。 ○活動の様子を写真や動画で示し、活動を振り返ることができるようにした。 ・本時の頑張ったことや次時に頑張ることを考えることができる。 <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <p>どのように取り組んだかを視覚的に提示する。</p> </div> </div>
活用ツール	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ ・タブレット端末(iPad) ・Excel ・写真 ・カメラ
ICT を活用して良かった点 反省・改善点等	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器の活用については、生徒の実態によって教師の見本の方が分かりやすい生徒もいれば、テレビで見た方が分かりやすい生徒もあり、学習内容の理解や振り返りでとても効果的だと感じた。しかし、どちらの手立てでも理解が難しい生徒については、提示方法を検討していく必要がある。

学年： 高等部3学年 教科名等： 総合的な探求の時間	
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○校外学習の徒歩ルートを確認する(日本調理技術専門学校～安積永盛駅)。
ICT 活用のねらいと効果	<ul style="list-style-type: none"> ○GoogleMapsssss からポイントとなる場所をスクリーンショットし、書き込みをしてKeynote で提示した。 ・歩行者目線で経路の確認ができた。 <div style="display: flex; align-items: center;">  </div>
活用ツール	<ul style="list-style-type: none"> ・GoogleMapsssss ・Keynote ・テレビモニタ
ICT を活用して良かった点 反省・改善点等	<ul style="list-style-type: none"> ○短時間で効率よく説明できた。 ○複数のルートがあったため、教材を作成する前に実際に現地に行き、歩いて車の通行量や道幅を確認したうえで作成した。

学年：中学部2年

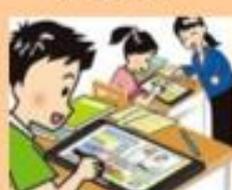
教科名等：音楽

授業の目標	曲を聴いて感じたことを言葉で表そうとする
ICT 活用の ねらいと効果	<p>○曲を聴いて感じた言葉を選び、画面に生徒の名前を表示することで誰がどの言葉を選んだのか全員で共有できる。</p> <ul style="list-style-type: none">●選んだ言葉のグループでの活動ができた。●授業を重ね、曲を聴いて感じた言葉が変わっても対応できた。 
活用ツール	●タブレット端末(iPad)・アプリ(keynote)・テレビモニタ
ICT を活用して 良かった点 反省・改善点等	<p>○曲を聴いて感じたことに変化があっても、タブレット端末をその場で操作し違う項目に名前を移動することで対応できた。生徒たちは自由に表現することができたと思う。</p> <ul style="list-style-type: none">●タブレット端末で操作をするときに、名前が小さくて操作がしにくかったので、画面の構成をもう少し考える必要があった。 <p>○keynote に音楽を挿入していなかったので、音楽を流しているときは別の教材で言葉を選んだ。音楽を挿入しておけば同じ画面上で、音楽を流しながら言葉を選ぶこともできると感じた。</p>

ICT 事例集

A1 + B1

教材の提示 + 個に応じる学習

<p>A1 教員による教材の提示</p>  <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p>B1 個に応じる学習</p>  <p>一人一人の習熟の程度等に合わせた学習</p>	<p>B2 調査活動</p>  <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	<p>C1 発表や話し合い</p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>	<p>C2 協働での意見整理</p>  <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>
<p>B3 思考を深める学習</p>  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p>B4 表現・制作</p>  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p>	<p>B5 家庭学習</p>  <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>	<p>C3 協働制作</p>  <p>グループでの分担、協働による作品の制作</p>	<p>C4 学校の壁を越えた学習</p>  <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>

学年： 小学部4年 教科名等： 音楽	
授業の目標	音や音楽に注意を向けて気付くとともに関心を向け、音楽表現を楽しむ。 (音楽づくり)楽器を選んで、場面に合わせて音をならすことができる。
ICT 活用のねらいと効果	<ul style="list-style-type: none"> ○星空の画像で流れ星が流れていることに気付き、音をならすことができる。 ・流れ星が流れる様子を注視して楽器をならすタイミングがわかる。 <ul style="list-style-type: none"> ○星がない空や流れ星がたくさん流れる画像を使い、その空の様子に合わせて楽器を選んだり、ならし方をかえたりすることができる。 ・ならす時とならさない時がわかる。 ・空の様子に合わせて、ならし方を考える。
活用ツール	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビモニタ ・タブレット端末(iPad)Keynote
ICT を活用して良かった点 反省・改善点等	<ul style="list-style-type: none"> ○注視することができるようになったり、注視する時間が長くなったりした。 ○空の様子に合わせた楽器のならし方で表現することができた。 ●前で発表する際にテレビモニタを見ての発表になるため、工夫が必要。



学年： 小学部2年 教科名等： 自立活動	
授業の目標	・教師の話を受け入れて、やりとりをしながらやってみようとする。
ICT 活用のねらいと効果	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレット端末の操作が得意な児童が興味関心をもって学習に取り組めるようにした。 ・操作が得意なため、学習内容の理解がスムーズ。 ・教材(イラスト、文字)に注目しやすい。 ・操作が簡単で児童が取り組みやすい。 <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="text-align: center; margin-right: 20px;"> <p>ねこ</p> </div> <div style="text-align: center; margin-right: 20px;"> </div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e6f2ff;"> <p>正解の画像をタッチすると○、不正解の画像をタッチすると×が表示されます</p> </div> </div>
活用ツール	・タブレット端末(iPad) ・PowerPoint
ICT を活用して良かった点 反省・改善点等	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の興味関心が高く、集中して取り組むことができていた。 ○操作が簡単なため、児童が発信しやすい。 ●操作が得意なため、他のアプリを自分で開いてしまうことがあった。

ICT 事例集

B1

個に応じる学習

A1 教員による教材の提示



画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

B1 個に応じる学習



一人一人の習熟の程度等に応じた学習

B2 調査活動



インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録

C1 発表や話し合い



グループや学級全体での発表・話し合い

C2 協働での意見整理



複数の意見・考えを議論して整理

B3 思考を深める学習



シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習

B4 表現・制作



マルチメディアを用いた資料、作品の制作

B5 家庭学習



情報端末の持ち帰りによる家庭学習

C3 協働制作



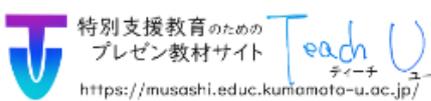
グループでの分担、協働による作品の制作

C4 学校の壁を越えた学習



遠隔地や海外の学校等との交流授業

学年： 高等部1年 教科名等：日常生活の指導(職業・国語)

<p>授業の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の中の役割が分かり、自分の役割を果たすことができる。 ・朝の会の流れに見通しをもち、参加することができる。
<p>ICT 活用のねらいと効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○画面上にある印をタッチして音声が出るようにすることで、発声・発語のない生徒が日直としての役割を果たすことができるようにした。 ・音声を流して会を進めることができる。 ○会の流れをイラストで表し、タッチする印にすることで、音声とその意味が一致するようにした。 ・会の流れが分かり、参加することができる。 <div data-bbox="430 716 861 817" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="957 638 1476 862" style="text-align: right;">  </div>
<p>活用ツール</p>	<p>・テレビモニタ ・タブレット端末(iPad) ・PowerPoint(Teach U)</p>
<p>ICT を活用して良かった点 反省・改善点等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○発声・発語のない生徒も自分で会を進めることができた。また、会に参加している他の生徒もテレビモニタに注目して会に参加していた。 ●タッチする動作が上手く作動しないときに会が滞ってしまうことがあったためタッチペンなどを活用してスムーズに進めることができるようにしたい。

ICT 事例集

B2

調査活動

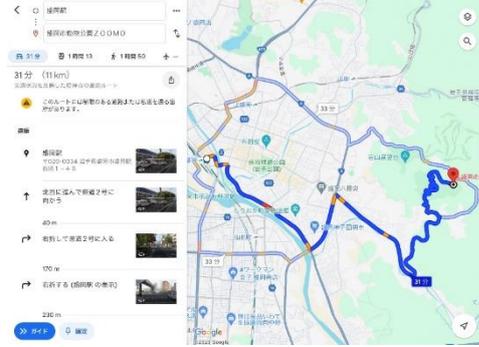
<p>A1 教員による教材の提示</p>  <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p>B1 個に応じる学習</p>  <p>一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p>	<p>B2 調査活動</p>  <p>インターネットを用いた情報の収集、写真や動画等による記録</p>	<p>C1 発表や話し合い</p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>	<p>C2 協働での意見整理</p>  <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>
<p>B3 思考を深める学習</p>  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p>B4 表現・制作</p>  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p>	<p>B5 家庭学習</p>  <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>	<p>C3 協働制作</p>  <p>グループでの分担、協働による作品の制作</p>	<p>C4 学校の壁を越えた学習</p>  <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>

学年:小学部1年 教科名等:生活単元学習(生活・道徳)

授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおを育てて成長や変化に気付くことができる
ICT 活用のねらいと効果	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの写真を比較して成長を確認できる。 ・あさがおの変化に気付く。 (葉が増えたことや花のつぼみが咲いたことなど) ○子どもたちが自分で撮影した写真を使って記録していくことで、写真に注目しやすくなる。
活用ツール	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末(iPad)、Keynote、カメラ <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
ICT を活用して良かった点 反省・改善点等	<ul style="list-style-type: none"> ○葉が大きくなり、花が咲いて種を取ることができるという一連の大まかな流れをその都度振り返ることができた。 ○余暇時間に進んで Keynote を開き、あさがおの成長を振り返る児童もいた。 ●写真撮影をする際、長押しして連写してしまうことがあった。 ●写真を撮るために一時的に子どもが iPad を使う状況になるため、教員が付き、他の児童に待ちの時間ができてしまった。

学年:高等部2学年(類型Ⅰ、類型Ⅱ)

教科名等:総合的な探究の時間

授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の班別自主研修での目的地までの移動方法やルート、料金等を調べ行程表を作成することができる。
ICT 活用のねらいと効果	<p>【GoogleMapssss】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○場所の名前や住所を入力するだけで様々な情報が調べられる。 <p style="text-align: center;">ここに入力する→</p> <ul style="list-style-type: none"> ○操作が簡単で、覚えればすぐに操作して調べることができる。 <div style="text-align: right;">  </div>
活用ツール	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末(iPad)
ICT を活用して良かった点 反省・改善点等	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人スクリーンショット等を活用することで、簡単に保存することができ、書くことが難しい生徒でも簡単に記録することができる。 ●多くの情報が出てくるため、時間を見てどの公共交通機関を使うか考え選ぶ力が必要である。

ICT 事例集

B3 + B5

思考を深める学習 + 家庭学習

A1 教員による教材の提示



画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

B1 個に応じる学習



一人一人の習熟の程度等に応じた学習

B2 調査活動



インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録

C1 発表や話し合い



グループや学級全体での発表・話し合い

C2 協働での意見整理



複数の意見・考えを議論して整理

B3 思考を深める学習



シミュレーションなどデジタル教材を用いた思考を深める学習

B4 表現・制作



マルチメディアを用いた資料、作品の制作

B5 家庭学習



情報端末の持ち帰りによる家庭学習

C3 協働制作

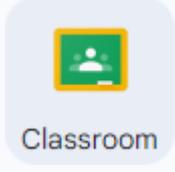


グループでの分担・協働による作品の制作

C4 学校の壁を越えた学習



遠隔地や海外の学校等との交流授業

学年： 高等部1年 1.2.3 組		教科名等：保健体育	
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを打つ・捕る・投げるなどの基本的な動作を身に付けることができる。(知・技) ・ボールを捕球する時、どうすればボールを捕りやすいか考えて実践する。(思・判・表) ・状況に応じて捕る位置・投げる強さなどを考えゲームに生かそうとする。(学び) 		
ICT 活用のねらいと効果	<ul style="list-style-type: none"> ○お手本の動きと自分の動きを見比べて、お手本の動きに近づける。 ・動画が同時に映されることによって、動きの違いが分かりやすい。 ○授業中以外で、学習ができる。 ・個人の iPad を使用することによって、動画が保存され、自宅で振り返りができた。 		
活用ツール	<ul style="list-style-type: none"> ・iMovie・classroom・AirDrop <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div>		
ICT を活用して良かった点 反省・改善点等	<ul style="list-style-type: none"> ○動画を撮影し、編集するところまで生徒ができるようになると、自分で課題に気が付き、学習をすることができる。 ○何度も撮影を行い、お手本の動きに近づけようとする姿があった。 ●一連の iPad 操作ができるまでに、時間がかかる。 		

学年： 高等部2学年(類型Ⅲ)		教科名等：数学	
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・○△□を中心とした形の弁別について理解を深める。 		
ICT 活用のねらいと効果	<ul style="list-style-type: none"> ○積み木や板磁石、身近な物(テープや定規、トレイ等)を使った具体的な操作による形の弁別学習を行った後、まとめとして○、△、□の形について学ぶことができるようにした。 ・同じ形を選ぶ。同じ形を選んで枠にはめる。 (大きさや色が同じ場合、大きさや色、模様が違う場合) ・形を比べて、同じや違いに気付くことができる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>いろいろ かたちの きほん</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>おなじ かたちは どれかな</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>まちがいがし ずけい</p> </div> </div>		
活用ツール	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末(iPad) 「すくすくプラス」 		
ICT を活用して良かった点 反省・改善点等	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態に応じて段階的に繰り返し学習を進めることができた。 ○5問正解すると好きなシールをゲットできるアプリなので見通しが持ちやすく意欲的に学習することができた。 ●問題の意味をよく見たり聞いたりせずすぐに操作しようとするところがあるため、問題を分かりやすく伝え、よく考えてから答えるように伝えた。問題に注目する習慣を身に付ける必要がある。 		

ICT 事例集

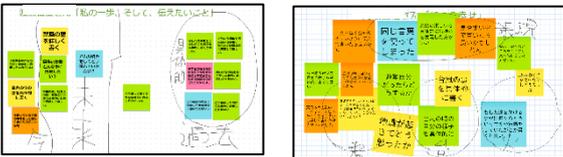
C1 + C2

発表や話し合い+協働での意見整理

<p>A1 教員による教材の提示</p>  <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p>B1 個に応じる学習</p>  <p>一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p>	<p>B2 調査活動</p>  <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	<p>C1 発表や話し合い</p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>	<p>C2 協働での意見整理</p>  <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>
<p>B3 思考を深める学習</p>  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p>B4 表現・制作</p>  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p>	<p>B5 家庭学習</p>  <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>	<p>C3 協働制作</p>  <p>グループでの分担、協働による作品の制作</p>	<p>C4 学校の壁を越えた学習</p>  <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>

学年： 高等部3年

教科名等：国語

授業の目標	・自分の考えを付箋に書いて表すことができる。 ・それぞれが出した考えを共有し、話し合いをしながらまとめることができる。
ICT 活用の ねらいと効果	○同時に意見を出し合ったり、共同作業でカテゴリー分けしたりできる。 ・リアルタイムに内容を共有したり編集したりできる。 ・発表時間の短縮ができる。 ・意見が出しやすい。 ○文字による視覚的情報が残る ・発表内容が文字で確認できる。 ・話し合いでまとめたものがデータとして残り、共有できる。 
活用ツール	・テレビモニタ ・タブレット端末(iPad) ・Jamboard
ICT を活用して 良かった点 反省・改善点等	○手元で付箋を動かせるということで生徒の意欲が喚起され、話し合い活動が生徒主体で活発に行われた。 ●タブレットの基本操作ができるスキルが必要。話し合いのルールを事前に提示しておくくとスムーズである。(友達が書いたものを勝手に消さないなど)

ICT 事例集

B4

表現・制作

A1 教員による教材の提示



画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

B1 個に応じる学習



一人一人の習熟の程度等に応じた学習

B2 調査活動



インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録

C1 発表や話し合い



グループや学級全体での発表・話し合い

C2 協働での意見整理



複数の意見・考えを議論して整理

B3 思考を深める学習



シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習

B4 表現・制作



マルチメディアを用いた資料作品の制作

B5 家庭学習



情報端末の持ち帰りによる家庭学習

C3 協働制作



グループでの分担、協働による作品の制作

C4 学校の壁を越えた学習



遠隔地や海外の学校等との交流授業

学年:小学部6年 教科名等:生活単元学習(図工・国語)

<p>授業の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文字をよく見てなぞることができる。 ・自分で選んだ楽器の絵を色塗りすることができる。 ・文字と絵を組み合わせて学級一枚のスライドを作ることができる。
<p>ICT 活用のねらいと効果</p>	<p>○見本の文字の大きさや色を実態に合わせて選び、なぞりやすいようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆を使って文字を書くことが難しい児童に、自分の指先を直接動かし文字を書くことで上手になぞることができるようになった。 <p>○スライドの見本を見せることで、どのように作ったらよいかイメージできるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見本を見せたことで、何をするのかをよく理解することができた。また、自分の絵や文字を組み合わせてスライドができるといつもよりきれいに文字が書けたことに達成感を味わうことができた。
<p>活用ツール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビモニター ・タブレット端末(iPad)-keynote 
<p>ICTを活用して良かった点 反省・改善点等</p>	<p>○苦手な部分を省いて直接文字を書くことができたことで、きれいに書くことができ自信につながった。</p>

ICT 事例集

C3

協働制作

A1 教員による教材の提示



画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

B1 個に応じる学習



一人一人の習熟の程度等に応じた学習

B2 調査活動



インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録

C1 発表や話し合い



グループや学級全体での発表・話し合い

C2 協働での意見整理



複数の意見・考えを議論して整理

B3 思考を深める学習



シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習

B4 表現・制作



マルチメディアを用いた資料、作品の制作

B5 家庭学習



情報端末の持ち帰りによる家庭学習

C3 協働制作



グループでの分担、協働による作品の制作

C4 学校の壁を越えた学習



遠隔地や海外の学校等との交流授業

<p>授業の目標</p>	<p>プログラミング的思考を通して論理的思考力を育む</p>
<p>ICT 活用のねらいと効果</p>	<p>○手順を考えて、プログラムを組み、その結果がすぐに見える形で現れることで、改善を図ろうとした。</p> <p>・条件の検討や手順の整理などに自発的に取り組んだ。</p> <p>○日常生活における課題をプログラミングの力で改善しようとした。</p> <p>・自身の行動についても論理的に考えることにつながり、忘れがちなこと(電気を消す)について、周囲に指示される前に気付くことができるようになってきた。</p> <div data-bbox="352 555 1469 808"> </div>
<p>活用ツール</p>	<p>・MESH(IOT ブロック)</p> <p>・iPad</p>
<p>ICT を活用して良かった点 反省・改善点等</p>	<p>○生徒たちは、中学校時代にプログラミングについて、スクラッチ Jr 等で学習している経験があったが、実際に自分の指示で具体物が動作する経験はなかったため、自分の行動で変化が見られる本装置は非常に有効であると感じた。</p> <p>●改善点としては、時数の都合上、生徒たちの創造性を育む活動時間の確保ができなかった点がある。さらに触れて考える時間がとれれば、より学びが深まると感じた。</p>